

地域の劇場で、ゲームを通じて絆を強めるイーウェルの新入社員ら

東京採用の新入社員

松江で田舎暮らし研修

福利厚生 代行大手「地域への愛着を」

福利厚生代行サービス大手のイーウェル（東京都千代田区）が、東京採用の新入社員研修を松江市で行っている。地域への愛着を持ってもらうべく、松江市も交流事業などを提案して研修をサポート。同市八雲町で豊泊まりする新入社員は5月から1カ月間、市役所八雲支所や地域の劇団の協力のもと、農村の暮らしを楽しんでいる。



市も事業サポート

同社は2011年6月、同市玉湯町の松江湖南テクノパーク内に松江オペレーションセンターを開設。同市での新人研修は初の試みで、松江市も誘致企業に対して初めての支援として、八雲町の農業体験施設・やくもアグリパークを宿泊所として紹介した。

市は、同社が新入社員の連帯感を深めようと共同生活を希望していることを知り、農業体験や、地域の住民と田舎料理を囲む交流会

の開催も提案。同社がのまない島根での生活だのつながりが深まってしまっが、農村生活で仲間とたと話し、充実感をにじませた。23日には、八雲町内にあるしいの実シアターで、地元のNPO法人あしぶえの劇団員らと、コミュニケーション力を鍛えるワークショップに挑戦。体を動かして自己紹介ゲームなどに汗を流し、絆を強めた。

大阪府八尾市出身の蘭田治樹さん（25）は「ワークショップでは互いの素の一面を見ることができた。なじみ

の開催も提案。同社がのまない島根での生活だのつながりが深まってしまっが、農村生活で仲間とたと話し、充実感をにじませた。

山陰中央新報 2013年5月25日掲載